

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター 所長

タマネギベと病発生株の抜き取りの徹底について

県内の極早生タマネギにおいて、今年度作では初めてべと病の発生が確認されました。発病株は、周辺の健全株の伝染源となるため、ほ場の見回りを行い、見つけ次第除去処分してください。なお、植え付け時期が早い極早生及び早生ほ場や前作で本病の発生が多かった圃場では早期から発病する場合がありますため、特に注意するよう下記事項を参考に生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況

- (1) 12月26日に、10月中旬植えの極早生タマネギ（マルチ栽培、トンネルなし、品種：スーパーアップ）1ほ場で、べと病の発生を1株認めた。複数の葉身で分生胞子の形成はあったが、葉身の湾曲や黄化はみられなかった（写真1、2）。
- (2) 同日、当センターが実施した早生、中晩生品種を対象とした調査（県内16ほ場）では、本病の発生を認めなかった。



写真1 極早生タマネギに発生した
べと病
(平成28年12月26日撮影)
赤丸は胞子形成部位



写真2 葉身に形成された分生胞子
(写真1と同株、平成28年12月26日撮影)

2. 防除対策

- (1) 圃場を観察し、発病株の発生状況を確認する。ただし、厳寒期の発生数は極めて少ないため、観察は丁寧に行う。
- (2) 後述する注意点に留意し、発生株の抜き取りに重点を置く。
- (3) 厳寒期は本病の伝染が起こりにくいため、これまで計画的に薬剤防除を行ったほ場での薬剤防除は、主要な伝染が始まる2月下旬からの実施に重点を置く。
- (4) 定植の遅れ等により計画的に薬剤防除が行われていない苗床及び本ぼでは、薬剤防除を徹底する。

【越年罹病株の特徴】

葉の光沢がなくなり淡黄緑色になり、生育も遅れ、葉はやや湾曲する（写真3）。

15℃前後の多湿条件下で、全身に白色のつゆ状または暗紫色のかびを生じる（写真4）。



写真3 越年罹病株



写真4 越年罹病株の葉身に形成された分生孢子

【越年罹病株抜き取りの注意点】

1. 分生孢子は乾燥条件で発芽能力が急激に低下するので、分生孢子的形成が見られるときは、必ず晴れて気温が上昇し、湿度が下がった午後、葉の表面が乾いてから抜き取りを行う。
2. 抜き取り作業により健全株に伝染させないため、抜き取った株はすぐにビニル袋等に入れ、密封する。
3. 抜き取り株は埋設など適切に処分する。
4. 抜き取った株を放置すると伝染源となるので、決してほ場周辺に放置しない。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085